

受章

おめでとうござります

秋の叙勲

瑞宝双光章

仁科富太郎さん（笠岡）



「保護司にならないかと誘いをいただいたときは非常に迷いましたが、青少年に対する活動をしていたことがありましたからやってみようと思いました。」と語ります。

今までに百人以上の更生に尽力され、本人だけでなく家族とも話し合いながら活動してきました。「特に、若い年代で罪を犯す者は家族の愛情が少ない場合が多いですね。ですから、家族の協力なくして更生は難しいと思うんですよ。」

昭和五十一年から現在に至るまで保護司として非行少年などを更生するために尽力されている。また、同時に保護監察処分を受けた人と各地域の保護司との引き合わせ役となる駐在保護司を務められている。

もともと、地元中学校区の青少年健全育成連絡協議会の会長をされていた仁科さんは、

瑞宝単光章

松浦 健さん（有田）



四十一年の永きにわたり各地の災害現場で消防活動に従事。平成十三年から二年間は、笠岡市消防団長として消火栓の増設や防火水槽の設置・改修など防災対策に尽力された。

長い消防団生活の中で、松浦さんが忘れられないと語ったのは、昭和五十九年の金浦中学校の火災でした。「何とか管理棟だけは守りましたが、火災への恐怖を感じると同時に悲しさを感じましたよ。自分の母校でもあったし、ちょうどその頃、私の息子が金浦中学校に通っていましたからね。」

消防団長になられてからは操法訓練を指揮し、技能が高い消防団に贈られる「表彰旗」を受章。「私は今まで、和

を大切にし、部下団員に対しても目線を同じにして来たつもりです。」

現在は、自らが営む商店の経営で忙しい毎日を過ごしている松浦さん。これからの消防団に対しては「私が言うことは何もない。温かい目で見守っていきたいと思っています。ただ一点だけ、瀬戸内は海からの空つ風で山火事が延焼しやすい。緊急時に備えて団員の確保は十分してもらいたい。」と語っていました。

危険業務従事者叙勲

瑞宝単光章

小寺茂幸さん（笠岡）



笠岡消防署発足から三十八年の永きにわたり、消防職員として数々の水火災現場で活躍し、さらには消防施設の充実に貢献された。

「偉大な章をいただき身に余る光栄で、長年支えてくださった皆さんに感謝したい。」と喜びを語る小寺さん。昭和三十一年に笠岡市消防署が発足すると同時に入署し、数多くの災害現場に出動しました。なかでも、最も印象に残っているのは、昭和三十九年十二月に新賀地区で発生した民家火災だそうです。「火勢が強く延焼が拡大する中、行方不明の幼児二人を捜索するため、民家の中へ飛び込み、無事保護しました。風呂がまの中に二人を見つけましてね。そのときは本当によかったと思いますよ。」

その後も、消防施設の充実のために奔走され、はしご車や救助工作車の配備に尽力されました。「今の消防は複雑になっていきますね。救急救命士制度も整備され、勉強しながら身体も鍛えないといけないから大変だと思いますよ。消防職員の皆さんには、事故のないよう一生懸命がんばってほしいと思っています。」と語っていました。